

地域戦略2

戦略名：収益性の高い安足地域の水田農業の実現

(1) 対応方向

水田地帯では、古くから米麦の二毛作を中心とした土地利用型農業が展開されてきましたが、生産者の高齢化や減少、水田整備率が低く小区画のほ場が多い等の課題を有しています。また、今後とも米の消費減少が見込まれる中、所得の確保・向上に向けて需要のある作物への転換を図ることが求められています。

このため、水田の大区画化や汎用化を計画的に進めるとともに、意欲ある担い手がより効率的な営農を展開できるよう農地の集積・集約化を促進します。さらに、ICT等の技術を活用した省力化や露地野菜等の高収益作物の導入及び食品企業と連携した麦等の生産拡大により、経営の規模拡大や複合化を進め、水田農業の収益向上を図ります。

(2) 主な指標

指標項目	現状(2019)		目標(2025)
50a 区画以上の整備面積	67ha	➡	110ha
新規導入・拡大推進作目(水田露地野菜・新規需要米・機能性麦)の作付面積 ※1	766.5ha		1,000ha
土地利用型経営を主とする中核経営体数※2	4 経営体		6 経営体

※1 水田露地野菜(ねぎ、キャベツ等)、新規需要米(飼料用米、WCS、米粉用米等)、機能性麦(もち絹香、ビューファイバー等)

※2 農業関連販売金額3,000万円以上の経営体



ほ場整備を待つ農地(馬門地区)



大区画化・汎用化により利活用の場が広がった農地(イメージ)



食物繊維を多く含む機能性麦の栽培



排水対策を行った水田を活用したねぎ栽培

(3) 取組方策

【水田の大区画化、スマート農業、農地の集積・集約化の推進】

- ① 地域の関係者の話し合いに基づく営農ビジョンの策定支援とともに、水田の大区画化や露地野菜等の導入が可能となる汎用化など、担い手が使いやすい生産基盤の整備を計画的に進めます。
- ② ほ場水管理システムやGPS搭載農業機械、ドローンなどスマート農業機器の活用による作業の省力化・効率化を図ります。
- ③ 人・農地プランの実行を通じて、中核となる土地利用型経営体に加え、複合経営体やJA出資型法人等、水田を担う多様な経営体への農地の集積・集約化を促進し、規模拡大と作業効率の向上を図ります。

【土地利用型園芸の生産拡大】

- ① 水田農業経営の高収益化を図るため、個別診断に基づく経営シミュレーションを活用し、露地野菜等の導入・拡大を推進します。
- ② 管内には食品企業が多く存在することから、露地野菜等の生産者と食品企業、JA等が連携した販路の確保・拡大の取組を支援します。

【主食用米に代わる土地利用型作物の推進】

- ① 地元産の麦を利活用する管内実需者との連携を強化し、健康機能性等の特徴を持つ麦の導入を促進するとともに、栽培技術の普及による高品質安定生産を支援します。
- ② ソフトグレンサイレージ向けの飼料用米生産など、主食用米に代わる多様な用途に応じた米生産を推進します。

(4) 推進体制と役割分担

